

すずか民報

第127号
2008年4月24日

日本共産党鈴鹿市議団 市議会の報告

高速道路よりも、暮らしに直結する 生活道路の整備こそ最優先に



工事中の国道306号バイパス(伊船町)

「道路特定財源の一般財源化」が国政の争点になっていますが、毎年5兆円余も使われる道路予算が、地方の大事な生活道路には回ってこない実態があります。

4キロに40年もかかっては、 亀よりも遅い

市街地と東名阪鈴鹿インターをつなぐ、「鈴鹿市の背骨」と位置づけられた「中央道路延伸」(神戸長沢線)は、計画から20年かかって全線4キロの内、汲川原橋から2キロが4車線で開通しましたが、西半分の2キロの4車線化はまだ10年以上かかるので、完成のめどは立っていません。

新名神開通のあおりで渋滞がはげしくなっています。西部地区を横切る「国道306号線伊船バイパス」も、三重県側でいちばん遅れていて、計画から20年となる3年後にやっと鈴鹿インターまで開通の予定、その先は未定という状態です。

川岸市長は「県に事業促進をお願いしている」と答えるとともに、「安定した財源の確保が必要」とも述べました。



「仮橋」工事が8年も止まっていた「鈴鹿橋」(高岡町)

地方に予算が 回ってくる 仕組みに変えて

石田議員は「これまでも安定した道路財源があったのに、生活道路は遅れたまま。莫大な道路財源がほとんど、高速道路や高規格道路に取られて、地方の生活道路に回ってこない状態を解決するには、一般財源にして地方にきちんと配分することしかない」と主張しました。

中学校給食にむけて 「検討委員会」を再開

08年度予算に「中学校給食検討委員会」経費が計上されました。04年にも同じ名称の委員会がありました。04年にも同じ名称の委員会がありました。04年にも同じ名称の委員会がありました。

「給食ではなく弁当販売に」という看板倒れのものでした。市教委は05年から民間業者による「ランチサービス」事業を始めましたが、評判は上がらず3年

「後期高齢者医療」も 「道路特定財源」も

そのまま追認した市議会

国会では、野党が共同で「お年寄りをいじめる後期高齢者医療は廃止させよう」と運動しています。また、「道路特定財源は一般財源に、暫定税率は廃止を」という要求でも野党は一致しています。

ところが、地方議会では民主党系の議員も自民・公明とともに「オール与党」の態度が目立ちます。鈴鹿市議会では、3月議会で「道路財源確保」の意見書

これでいいのか、ズサンな生活保護行政

ノーチエックで月百万円もの交通費

森川議員は、2月に明らかにになった生活保護制度の中の「介護タクシー」不正請求についていただきました。

生保を受けている障害者が、通院に介護タクシーを利用することは認められています。今回のケースは異常に高額な料金がノーチエックで払われていたものです。

例えば、1人が1日に5ヶ所の病院をタクシーで回り、料金が1日6万円、月百万円と、だれが見ても非常識な金額なのに、市は請求どおり支払ったのです。

森川議員は、「なぜこんな不正請求を見抜けなかったのか」と追及しましたが、市側は不正分は返還させたと言うだけで、原因や責任

についてははっきり答弁できませんでした。

生活に困った市民の支えになれる行政に

一方では、保護の申請にあれこれ理由を付けて却下したり、夫が亡くなったばかりの人に安い家賃の借家に替わるように勧めたり、などの冷たい対応があります。

森川議員はこれこそ「強きを助け、弱きをくじく」生保行政ではないかと、根本的な姿勢の転換を求めました。

妊産婦健診、5回無料になります

この4月から妊産婦健診の公費負担が、三重県下で2回から5回に増やされます。一回6〜7千円の健診費用は若いお母さんには重い負担で、3回増はうれしいことです。

12月議会で石田議員は、「厚生労働省は、公費14回が望ましいと通達している。また豊田市14回、秋田県10回など、各地で5回以上の公費健診がされている」と、

鈴鹿市はさらに回数を増やすよう求めました。



市長の高額退職金は廃止に

川岸市長は前期4年間の退職金として、昨年5月に1904万円を受け取りました。石田議員は3月議会で、「4年で18ヶ月分もの支給は特権的であり、廃止すべきだ」と質問しました

が、川岸市長は、「前期に1割へらし、県下ではいちばん支給率が低い」のでこのまま続けると答えました。

しかしその後、尾鷲市の新しい市長は「退職金廃止を公約にして当選しました。全国各地でも、退職金の見直し、廃止の動きが広がっています。

石田議員は、「今期のおと3年の間に、きっぱり見直すべきだ」と語っています。

不燃ごみ処理場が、市直営から民間企業に

23年間の長期で総額128億円の契約

鈴鹿市の不燃ごみやプラスチックごみを処理し、埋め立てやリサイクルを行なう「不燃物リサイクルセンター」（国分町）の第2期事業を、民間企業の手法（PFI）で進める契約（平成42年度まで総額128億円）が、3月議会で可決されました。



石田秀三 市議

今後は「ヤマゼングループ」（7社で構成）が、施設の建設、管理運営を行なうことになり、市は毎年、必要な経費を企業に提供するというものです。このPFI手法により、市直営で行うより12%財政負担が軽くなるとしています。しかし、20年を超える長期間、

不要入れ歯のリサイクルを

不要になった入れ歯を捨てないで！ 入れ歯を回収するNPO団体が、金・銀・白金などを精製すると、1個当り2500円の収入となり、40%をユニセフ、40%を回収した福祉団体に寄付する仕組みです。

森川議員が「鈴鹿でも入



不要入れ歯回収ボックス(亀山市)

れ歯回収ボックスの設置を」と提案し、市は具体化を検討中です。



現在の不燃物リサイクルセンター、右奥が第2期事業用地

どの問題が多くあり、市民への責任を果たせません。共産党市議団は、PFI契約には反対し、直営で続けることを求めました。



生活相談などお気軽に連絡下さい

石田 秀三 TEL 371-0423
鈴鹿市伊船町2751

森川ヤスエ TEL 384-3740
鈴鹿市矢橋3丁目10-34